

新版『新・高校生の美術1』 掲載作家・作品のご紹介

視線を
引き付け、
印象を
残すには？

問いかける
教科書とは？

目を引く
工夫はどこに？

なぜこれが
美術
なのか？

写っていない
ものがなぜ
感じられるのか？

不思議さは
どこに
あるのか？

新・高校生の美術 | 1

日本文教出版



存在感や
生命感を
表すには？

誰のための、
何のための、
デザイン？

美I 116-901



作家探究ページ
レオナルド・
ダ・ヴィンチ



山村浩二



明和電機
土佐信道



彦坂有紀



もりといずみ
彦坂木版工房



創造の舞台裏ページ
大小島真木

表紙の1

Interview

森本啓太



日文的Webサイト
新版教科書情報

日文 🔍



新

しい教科書の表紙を飾る《Long Day》は、不思議な魅力に満ちた作品である。絵の中の若い女性はコート
を羽織ったまま、キッチンに寄りかかるようにして宙を見つめている。室内は薄暗く、右手上方のライトが女性を背後から照らす。シンク周りには調理器具やプッシュボトルとともに、食べ物が盛られた皿が置かれている。長い1日(=Long Day)を終えた女性がささやかな食事を準備して、ひと息ついているシーンだろうか。女性の足元には、体をひねるようにしてこちらに視線を送る猫の姿もある。

この作品が見る人の想像力を刺激してやまないのは、描かれた光景が私たちの日常と地続きであるからだろう。日常的で、ある種の既視感を覚える光景は、どのようにして美術表現となるのだろうか。森本が作風をつくりあげてきた経緯を振り返りながら、考えてみたい。

レンブラントの出会い

森本は地元大阪で高校に進学するも、「人生のルールが敷かれてしまった」と直感し、親を説得して16才で単身カナダへと旅立つ。英語が話せなかった森本が選択科目として選んだのが美術のクラス。そこでの西洋絵画との出会いがきっかけとなり、本格的に絵画への道を目指すことになった。高校卒業後は、そのままカナダの芸術大学へ進学、主にコンテンポラリーアートの理論を学んだ。大学院行きを検討するために訪れたニューヨークでは、たまたま入ったメトロポリタン美術館でレンブラントの肖像画群と運命的な出会いを果たしている。

「はじめて見たレンブラントは、写実絵画を超えた人間の存在感が絵の中にあって、唖然としたというか、ものすごく感動したのを覚えています。絵画の力をまざまざと感じた瞬間でした」と森本は当時を振り返る。

レンブラントをはじめとした古典絵画に圧倒的な絵画の力を感じ取った森本は、古典絵画技法の研究を始める。そうして生まれた作品のひとつに《Night Watcher》がある。この作品は、レンブラントの代表作《夜警》(英名: Night Watcher)に強く影響を受けており、《夜警》の世界観に、森本自身が経験している現実世界や友人たちをあてはめた実験的な作品である。とくに参考にしたのは光の扱い方。レンブラントの《夜警》では中央に描かれた自警団の隊長と副隊長、その左奥の少女にスポットをあてることで演劇的構成がとられているが、森本の《Night Watcher》でも二人の女性に光があてられ、絵画にドラマチックな効果を与えている。

その後も、技法への興味は尽きることはなく、各国の美術館に足を運んでは貪欲に技術を学び、古今東西の名画をオマージュした作品を立て続けに生み出した。

積極的な「逃走」

カナダに渡った当初、現地で感じたのは豊かな多様性であった。移民国家であることから、さまざまな宗教観や人生観が共存していることに感銘を受けたのだという。当時の森本の絵画の多くに、友人がモチーフとして登場しているのは、全く思想の違う人間理解のために必要なことだったのかもしれない。しかし、時が経つにつれ、そんなカナダの雰囲気が変わってくる。

「次第に社会的な対立や分断が身近に感じられるようになりました。コロナ禍でもあり、ここから逃げたい思いが強くなって、帰国を決意しました」

こうして2021年に森本は日本への帰国を決意する。31歳の時であった。

「それまでの人生を振り返ってみると、中学、高校の時



Long Day
[アクリル・油彩・キャンヴァス／162×130.3cm]
2023年
森本啓太[大阪府・1990～]



夜警
[油彩・キャンヴァス／379.5×453.5 cm] 1642年
アムステルダム国立美術館蔵[オランダ]
レンブラント・ファン・レイン[オランダ・1606～69]

Nightwatchers

[油彩・キャンヴァス／243.8 × 304.8 cm] 2014年
森本啓太



から、なんらかの『圧』——例えば社会規範や同調圧力から逃走したい性質が僕の根本にあることに気がつきました。それを表現の核に据えようとしたときに、逃走をネガティブではなく、ポジティブに捉え直すことにしたんですね。自分が好きな人や馴染みの場所というのが、社会の規範からちょっとずれている人だったり、中心街から少し外れたところだったりする。それはある種の逃走だと思うのですが、それらを美しいものとして絵画にすることで、逃走に積極的な意味を与えることができるのではないかと考えました」

森本は、身近な友人や馴染みの場所といったプライベートなシーンを主なモチーフとするようになる。カナダ時代も身近な人間を多く描いたが、帰国後の作品では、もう一步対象の内面に踏み込んでおり、豊かな叙情が作品を彩っている。他者の姿を借りながら、自己表現の要素を強く含むように変化してきたのだろう。

日常を絵画化する古典技法

制作は、しばしば写真を撮ることから始めるが、森本の場合、写真からどんどん遠ざかっていくところにその本質がある。方法論としては、従来の写実絵画とは異なり、写真を基にしつつも、そこから独自の絵画空間を生み出していく。

「僕の場合、撮影した写真の色味や明暗をパソコン上で大胆に変えていくんです。部分的に明るくしたり、暗くしたりするほか、コラージュも多用します。《Long Day》と言うと、猫は部屋にはいたのですが、絵の元となった写真には写っておらず、別で撮ったものをコラージュしています。コラージュすることで画面のなかでの解像度を自由にコントロールできますから。レンブラントの《夜警》のシーンを写真で再現するのが不可能なように、古典絵画の空間

というのは、写真とはまるで違うもので、その違和感が絵画を強くしてくれるんですね」と森本は続ける。

かつての画家がスケッチの過程で構図や明暗、解像度の操作によって絵画空間をつくってきたように、森本はデジタル写真に対する絵画的な加工によって日常的な光景をドラマチックな表現へと昇華しているのだ。

パーソナルからユニバーサルへ

一枚の絵が美術史にその名を残すためには、絵としての完成度はもちろんのこと、作品が時代を表す普遍性を獲得する必要がある。今の時代のエッセンスを抽出し、表現することはいかにして可能となるのだろうか。

「美術においてユニバーサル(普遍的)であることは重要ですが、そのアプローチの仕方として、僕はパーソナル(個人的)なところから出発したいと思っています。最近読んだ大江健三郎の《個人的な体験》にこんな一節がありました。『個人的な体験のうちにも、ひとりでその体験の洞窟をどんどん進んでゆくと、やがては、人間一般にかかわる真実の展望の開ける抜け道にできる、そういう体験はある筈だろう?』と。

僕自身、自分が経験しているパーソナルな世界に感情移入しながら描くという方法をとっていますが、好き嫌いであれ、なんであれ、自分の価値観を鵜呑みにするのではなく、その出所を含めてどれだけ深掘りできるかが大事です。そういう意識がないと、どうしても社会通念に飲み込まれてしまうんですね。

自分を深掘りすることは、クリエイティブなものを生み出す土壌になるし、それがやがて美術というユニバーサルなものに育っていくことを願って表現を模索し続けています」

Interview

表紙の人

森本啓太さん

新しい教科書の表紙作品は、
森本啓太が描いた《Long Day》。
身の回りの風景や出来事を、美術的な視点で捉え直す。
同時代を生きるアーティストは、
どんなことを考えて表現しているのでしょうか。



Profile

もりもと・けいた

1990年、大阪生まれ。バロック絵画や20世紀初頭のアメリカン・リアリズムの技法を参照しながら、ドラマチックな光の演出により現代の都市生活のワンシーンを印象的な光景へと生まれ変わらせている。



◀ インタビューの全ては動画で



◀ 森本啓太 オフィシャルページ



機械とアートの融合「ナンセンスマシーン」はココから発進!

インタビュー & 発想法



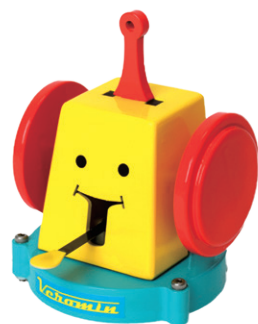
めい わ でん き
明和電機

と さ の ぶ み ち
土佐信道さん

[兵庫県・1967~]

P. 76・77掲載

音符型の電子楽器
『オタマトーン』



声をイメージした楽器『ベロミン』

“言葉遊びから、
出会うはずのないものが
生まれた”

“自分の頭の上にある池へ、
どう飛び込むか”



アニメーション『頭山』のアイデアスケッチ



アトリエには画材や本がいっぱい。創造のヒミツに迫る。

アニメーション作家

やまむらこうじ
山村浩二さん

[愛知県・1964~]

P. 90・91掲載

インタビュー & アニメーション



「創造の舞台裏ページ」で作者の見方を学ぶ

このページに登場する5人のアーティストは、どこで何を思い創作しているのでしょうか。

QRコードからアトリエでのインタビュー動画を見られます。

“分解されることまでが
一緒くたになった生態系の
真の光景なのだ”

『世界の家』
クジラの死骸はやがて沈み、栄養素の少ない深海で生き物たちの莫大な餌となる。死んでもなお生命の家となり、それに生かされる深海の生物たちが表されている。



アーティスト

おおこじま まき
大小島真木さん

[東京都・1987~]

P. 24・25掲載

インタビュー



無数の絵の具を混ぜて創作される作品が所狭しと並ぶ。



インタビュー



ひこさかもくほんこうぼう
彦坂木版工房

もりといずみさん

[左: 東京都・1987~]

ひこさか ゆき
彦坂有紀さん

[右: 愛知県・1985~]

P. 12・13掲載

“実際に食べてから
制作します。
このおいしさを伝えたい”



『バナナホットケーキ』



やわらかな光が注ぎ込み、植物と木の温もりに包まれた工房。

「作家探究ページ」で 作品理解を深める

鑑賞ページの内容を軸に、掲載されたQRコードから解説動画へリンク。
さらに美術史ページを連動させて、主体的に探求型の学びができます。

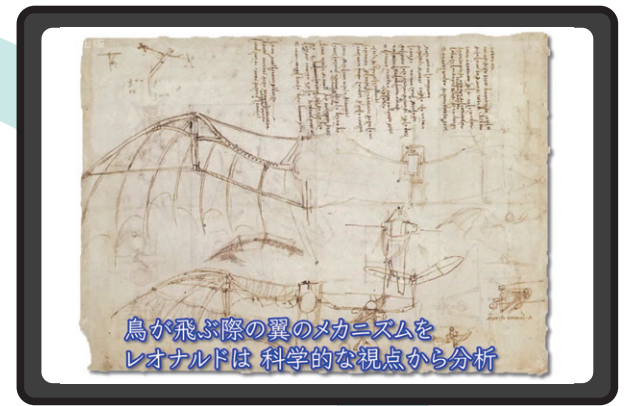
「解説動画」で、もっと作家や作品に迫る

作家の生涯を紹介し、作品のポイントを解説するQRコンテンツ。
教科書と合わせて使うことで、学びがさらに深まります。

解説動画を見よう



キリストのこめかみの部分に、釘の穴が開いているのが見つかった。



『受胎告知』の天使の翼には、レオナルドの思いが込められている。

“その手に魂が込められなければ、
芸術は生まれない”

レオナルド・ダ・ヴィンチ

発展的な
学び

Leonardo da Vinci
レオナルド・ダ・ヴィンチ

天才の足跡 01

自然観察から革新的なアイデアを導き出す

レオナルドは自然界のあらゆる事象を観察し、人体解剖も行い、手稿と呼ばれるノートに記録した。科学的な考察から、絵画・彫刻のアイデアを生み出していたのだ。

巨大彫刻のプラン

人体解剖図

流水の観察

① トリヴィツィオ騎馬像のための習作「ベン・インク」着色・紙／28×19.8cm 1508～11頃

② 肩、腕の筋肉の研究「ベン・インク」黒チョーク・着色・紙／28.9×19.9cm 1510～11頃

③ 流れる水の研究「後部」ベン・インク・黒チョーク・紙／29.6×20.7cm 1510～13頃

④ ⑤ ウィンザー城王室図鑑（イギリス）

天才の足跡 02

絵画技法を開発、後進に影響を与える

「最後の晩餐」では同時代に発達した線遠近法を取り入れた。中央のキリストに消失点が重ねられ視線が引きつけられる。「モナ・リザ」の背景では遠景に青みをかけてぼかす空気遠近法が用いられた。加えて、明暗を素早くぼかしていくスフマート技法により肌の質感を表している。

天才の足跡 03

若くして見事な描写力を発揮

レオナルドは10代でヴェロッキオの工房で修行。20歳の頃、「キリストの洗礼」の制作に参加し拡大図の左の天使を描いた。天使の表情、首をひねる難しいポーズや衣装表現の柔らかな陰影などにレオナルドの探究心がうかがえる。

最後の晩餐
[テンペラ・紙／420×910cm] 1495～98 サンタ・マリア・デル・グラツィエ修道院[イタリア]

モナ・リザ
[油彩・紙／77×53cm] 1503～06 ルーヴル美術館蔵[フランス]

キリストの洗礼
[テンペラ・紙／180×152cm] 1472～73頃
ウフィツィ美術館蔵[イタリア]
アンドレア・ヴェロッキオ
[イタリア・1435～68]

東方三博士の礼拝（未完成）
[油彩・紙／240×244cm] 1482
ウフィツィ美術館蔵[イタリア]

年表

1452年 イタリアのトスカナ地方、ヴィンチ村に生まれる。

1466年頃 イタリアのフィレンツェに出て、ヴェロッキオに弟子入り。

1472～73年頃 ヴェロッキオの「キリストの洗礼」制作に参加。

1482年 イタリアのミラノに移住。1480年頃からアイデアを記した手稿を描き始めたと言われる。

1486年頃 イタリアのフィレンツェに「最後の晩餐」を制作する。

1495～98年 「モナ・リザ」を描く。

1500年 フィレンツェに戻る。その後、ミラノ、ローマ、フランスなどへ数年おきに移動。

1503～06年 「モナ・リザ」を描く。

1519年 フランスのアンボワーズで死去。

学びの目標

① 線画や表情、色彩などの効果、全体のイメージ、レオナルドの作風や様式などを捉える。

② レオナルドの作品の魅力を捉え、背景にある知識や表現技法、ルネサンスなどについて考える。

③ レオナルドの作品のよきや美しさなどを鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。

作家探究 レオナルド・ダ・ヴィンチ(絵画・彫刻) P. 38・39掲載

「作家探究ページ」は合計で3つ

作家探究 アルヴァ・アアルト(デザイン・工芸) P. 78・79掲載

作家探究 ソール・ライター(映像メディア表現) P. 84・85掲載

学びの
循環

「美術史ページ」で、知識を豊かに

時代背景を知るとは美術文化の理解につながります。
生徒の「もっと知りたい」に応える充実の情報で、個別最適な学びにアプローチします。

美術史 ルネサンス P. 102掲載

ルネサンス

11～12世紀頃のヨーロッパで興った美術様式。ローマ美術の伝統とビザンチン美術の影響を受け、独自の様式が確立した。写実的な表現と人間像の重視が特徴で、空間に奥行きが感じられ、広い空間や天気にキリスト教の物語や教義を説く経典や奇想の物語が描かれた。自然観察の心をもち、自然に目を惹くことに注力した。自然観察の心をもち、自然に目を惹くことに注力した。

ゴシック

12世紀後半、フランスで興りイギリス、ドイツ、スペイン、イタリアに及んだ美術様式。建築の物語として、アーク・ウィンドウや彫刻などに現れ、尖塔・アーチの連続などが見られる。さらなる建築技術の進歩により、聖堂の内部は豪華な装飾から解放された。高い塔と柱の間に尖塔をつくることで高さを高め、彫刻に注力して自然観察の心をもち、自然に目を惹くことに注力した。

ルネサンス

戦乱やペストの流行による社会危機、資本主義的な経済発展、十字軍の遠征によってもたらされた異文化の受容といった時代の背景にあって、人々はキリスト教を中心とした人間の尊厳を再考するようになった。人々の生活を豊かにする考えが広がり、その再考と発展を促した。こうした動きがルネサンス(14世紀末～16世紀末)のイタリアのフィレンツェで起きた。個人主義に基づいたルネサンスは、「人間性」の発見の時代でもあった。

ルネサンス

ルネサンスは、15世紀後半にイタリアのフィレンツェで興り、16世紀にフランス、スペイン、ドイツ、オランダなどに広がった。ルネサンスは、15世紀後半にイタリアのフィレンツェで興り、16世紀にフランス、スペイン、ドイツ、オランダなどに広がった。

ルネサンス

ルネサンスは、15世紀後半にイタリアのフィレンツェで興り、16世紀にフランス、スペイン、ドイツ、オランダなどに広がった。

ルネサンスの時代背景をはじめ、様式や活躍した作家などを掲載。

6

7

美術 I のラインナップと 教科書検討の観点からみた特色

New



新・高校生の美術 1 | 美 I 116-901 | A4ワイド/156ページ

学習指導要領の内容に対応して構成され、基本的な題材から発展的な題材まで丁寧な解説とともにバランスよく掲載し、生徒の実態に応じた多様な学習が可能となっている。各題材は、タイトルや主文を分かりやすく示し、「問いかけ」や「ひらめきワード」を設け、意図をもって学習に取り組めるように工夫されている。特設ページ「FOCUS」「創造の舞台裏」「作家探求」や、巻末資料に、時代に沿った詳細な美術史及び制作過程を丁寧に示した豊富な技法ページを掲載し、生徒の見方・考え方を深め主体的な学習に生かせるようにしている。



高校生の美術 1 | 美 I -702 | A4/158ページ

高校美術の授業に寄り添い、豊富な作例と丁寧な解説で、美術の幅広い見方や考え方を紹介する158ページの教科書。全国の授業実践の調査を基に、定番題材から発展的な題材までバランスよく掲載している。各題材のタイトルや主文を端的で分かりやすい文章で示し、「学びの目標」を設けることで、生徒が意図をもって学習に取り組めるようにした。50ページを超える資料には、通史の美術史や、制作過程を丁寧に紹介した技法ページを収録。原寸大で作品を掲載したページでは、生徒が実際の作品の大きさを体感して、作家の表現の工夫を読み取ることができるようにした。



高校美術 | 美 I -703 | A4ワイド/104ページ

高校生に寄り添い、社会で生きる創造力を育む教科書。すべての題材ページに、テーマや学びのねらいに沿ってキャッチフレーズを示した。問いを投げかける文体やキーワードで生徒の発想を刺激し、生徒自身で答えを導き出す力を育む。折り込みや蛇腹折りのページ、透明フィルムを生かしたページなど、紙の教科書ならではの仕掛けで、美術への興味・関心を引き出すことができる。デザイン的思考、STEAM教育、SDGsなど、高校生がこれから社会に出るときに必要な世界の見方や考え方を積極的に取り上げ、授業で取り入れやすいように工夫して掲載した。

「高校生の美術 I」表紙資料提供協力

東洲斎写楽「三世大谷鬼次の奴江戸兵衛」出典: ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)、植田正治「パパとママと子供たち」東京国立近代美術館 Photo: MOMAT/DNPartcom、アンディ・ウォーホル「マリリン・モンロー」東京都現代美術館蔵 © 2023 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc./ ARS, NY & JASPAR, Tokyo E5101、田中一光「日本古典芸能団招請記念イベントのためのポスター 日本舞踊」© Ikko Tanaka/ licensed by DNPartcom 所蔵: DNP文化振興財団、アントニオ・ロペス・ガルシア「シンクと鏡」ボストン美術館蔵 © VEGAP, Madrid & JASPAR, Tokyo, 2023 E5101、俵屋宗達「風神雷神図屏風」建仁寺蔵 京都国立博物館寄託、ソール・ライター「床屋」© Saul Leiter Foundation, courtesy Howard Greenberg Gallery、宇野のチヌ 淀川テクニック

日本文教出版株式会社
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690